

本学の科研費（科学研究費補助金）応募・採択状況について

令和6(2024)年度科研費の応募期間は、昨年より前倒しされ令和5(2023)年7月14日(金)～9月19日(火)午後4時30分(厳守)となった。これは、審査結果を早く通知して4月からの研究実施が可能となるようにと配慮されたものであり、来年度以降も科研費の応募締切期限は9月中旬に設定される。例年より一か月早い締め切りとなり、実質7月と8月が準備期間となる。本学の締切は8月末となる予定であり、時間的に余裕を持って提出してもらいたい。申請書については、可能な限り目を通して改善すべき点を指摘して修正した申請書を提出してほしいと思う。本年度の申請書は9月19日ギリギリに出されたものも多かったため、来年には是非とも8月末までに提出していただき事前チェックの期間を確保してもらいたい。

今年の本学からの応募は、基盤C18本、若手4本の合計22本であった。本学からの科研費応募数は着実に増加しており、13本(令和2年)、14本(令和3年)、18本(令和4年)、24本(令和5年)と右肩上がりであった。本年は22本となり(表1)、応募数は昨年と比較して2本減少となったが、これは採択された研究者が増えたことも一因であろうと思っている。

(表1)

1	基盤研究(C)	武田 雅俊	高い認知予備力を有する早期認知症患者において抗体治療薬の病態修飾作用を検証する
2	基盤研究(C)	中松 俊介	補聴器使用による施設入居高齢者に対する認知症予防とその機序の解明
3	基盤研究(C)	堺 景子	断酒による抗酸化能の変化が高齢アルコール依存症者の健康寿命におよぼす影響
4	基盤研究(C)	武井 麻喜	自助グループのアルコール依存症者の自律性に関する検討；断酒生活を継続するために
5	基盤研究(C)	高橋 泰子	言語聴覚士に求められる臨床能力技能の修得
6	基盤研究(C)	畑中 良太	発達性協調運動症児と親の心理社会的問題の軽減を目的とした運動技能トレーニング
7	基盤研究(C)	久利 彩子	姿勢変換における足圧中心移動と足部挙上開始時点に着目した新たな転倒評価の開発
8	基盤研究(C)	中松 貴子	チューブ類の自己抜去防止と手指機能低下予防を備えた装具の開発
9	基盤研究(C)	田崎 史江	園芸療法によるリハビリテーション効果の脳科学的メカニズムの解明
10	基盤研究(C)	岸村 厚志	応用行動分析学を用いたスライディングボードの移乗介助技術短期習得プログラムの開発
11	基盤研究(C)	中村 美砂	地域高齢者の姿勢・運動機能に着目した口腔機能低下関連因子の解明と予防法の確立
12	基盤研究(C)	河野 良平	細胞内 α シヌクレインアミロイド凝集モデルを用いた食品の神経変性疾患予防効果研究
13	基盤研究(C)	岡 健司	非日常的ロコモーションの運動解析
14	基盤研究(C)	松尾 加代	健常高齢者のメタ認知：記憶と記憶以外の観点からの検討
15	基盤研究(C)	上島 健	陶芸活動による生活機能向上の要因を解明する研究
16	基盤研究(C)	竹内 直子	足圧分布(COP)データへの連検定適用による両脚立位と片脚立位の判別手法の開発
17	基盤研究(C)	上田 有紀人	急性期脳血管障害患者における注意障害の質的分析
18	基盤研究(C)	中越 雄也	客観的な成果指標による作業療法介入プロセスモデルの効果検証
19	若手研究	久保 峰鳴	マーカーレス歩行解析による新たな膝関節への機械的負荷指標の開発
20	若手研究	今井 亮太	慢性足関節症の発症リスクが判定可能なシステム開発
21	若手研究	嶋野 広一	高齢者の自動車運転と下肢深部感覚との関連性を解明する
22	若手研究	白岩 圭悟	作業活動を用いた脳波ニューロフィードバック訓練法の開発

表2に2023(令和5)年度受け入れ中の科研費13本の研究課題を示す。このうち5本が2023年度に新規採択の研究課題であった(大嶋、芦塚、峰久、大籠、今岡)。

(表 2)

課題番号	研究種目	開始年度	終了年度	研究者番号	研究代表者名	研究課題名	状況
18K17668	若手研究	2018年度	2023年度	90770553	上田 有紀人	パーキンソン病で出現する構音障害の画像特徴・脳画像解析による出現機序の解明-	継続
21K05441	基盤研究(C)	2021年度	2023年度	70569110	河野 良平	ウメのアレルギー疾患および性差に対する影響を明らかにする	継続
21K11257	基盤研究(C)	2021年度	2023年度	70285386	中村 美砂	新規エクサカインに着目した認知症予防のための運動の有効性の性差の解明	継続
21K11279	基盤研究(C)	2021年度	2023年度	80441153	上島 健	COVID-19下の社会的隔離は高齢者の認知予備力の程度で異なる影響を受けるのか	継続
21K21253	研究活動スタート支援	2021年度	2023年度	914152	佐伯 純弥	発育に伴う筋伸張と思春期における運動のぎこちなさの関連の解明	継続
22K11386	基盤研究(C)	2022年度	2025年度	30739397	肥田 光正	医工連携による地域で利用しやすい姿勢および関節アライメント測定プログラムの開発	継続
22K21258	研究活動スタート支援	2022年度	2023年度	10964041	久保 峰鳴	変形性膝関節症における筋骨格モデル解析とAI技術を活用した治療アルゴリズムの開発	継続
22K17696	若手研究	2022年度	2025年度	914152	佐伯 純弥	腱組織に対する効果的なトレーニング手法の開発	継続
23K02986	基盤研究(C)	2023年度	2025年度	30315709	大嶋 伸雄	高次脳機能障害者に対する認知行動療法を用いた行動変容アプローチの開発	新規
23K10361	基盤研究(C)	2023年度	2025年度	50761087	芦塚 あおい	高齢者における呼吸リハビリテーションがもたらす呼吸と嚥下の協調性変化の解明	新規
23K10774	基盤研究(C)	2023年度	2025年度	50441150	峰久 京子	小中学生の運動器の構造・機能的評価と効果的な運動介入の検討	新規
23K10795	基盤研究(C)	2023年度	2025年度	80584755	大籠 友博	感覚情報の変化に適応して運動を調節する神経回路基盤と非侵襲脳刺激を用いたその統御	新規
23K16367	若手研究	2023年度	2024年度	40780961	今岡 真和	就業高齢者を包含したICT活用によるプレフレイル改善プログラムの開発	新規

本学の科研費獲得プロジェクトは確実にその成果を上げてきた。教員 41 名のうち、13 名が科研費を獲得しており、22 名が応募申請している状況であり、35 名が科研費を獲得するかあるいは挑戦している。35/41 の 85% が科研費に応募しているという状況は、「科研費への応募は権利でもあり義務でもある。大学教員で科研費に応募しないことはあり得ない」と言い続けてきた者としては、多くの教員の皆さんに取り組んでいただいたことに感謝したい。科研費に応募しない人は本学の教員としてはマイノリティであり、是非とも来年度には応募していただき、全員応募も達成可能ではないかと思っている。

昨年度の科研費報告で、「全国の平均採択率は 25% 程度であり、本学から 5-6 本の採択が期待できる」と書いたが、本学からの 2023 年度採択率は単純に計算すると 5 本 / 24 本 (21%) であり、遜色のない数字になっている。

応募課題の内容も充実してきており、皆さんに真摯に取り組んでいただいたことに感謝すると共に、来年度は早めに提出していただき、事前チェックの時間的余裕を確保していただきたいものである。

早目に提出していただいた応募書類は見させていただき、そのうちのいくつかに対しては意見をフィードバックさせていただいている

ことにより、応募内容の質は確実に向上しているように思う。「応募結果の開示」結果が A あるいは B の方は、一度作成した応募書類は、その後何回でも採択に至るまで活用し続けるくらいの気持ちで、取り組んでいただきたいと思う。

